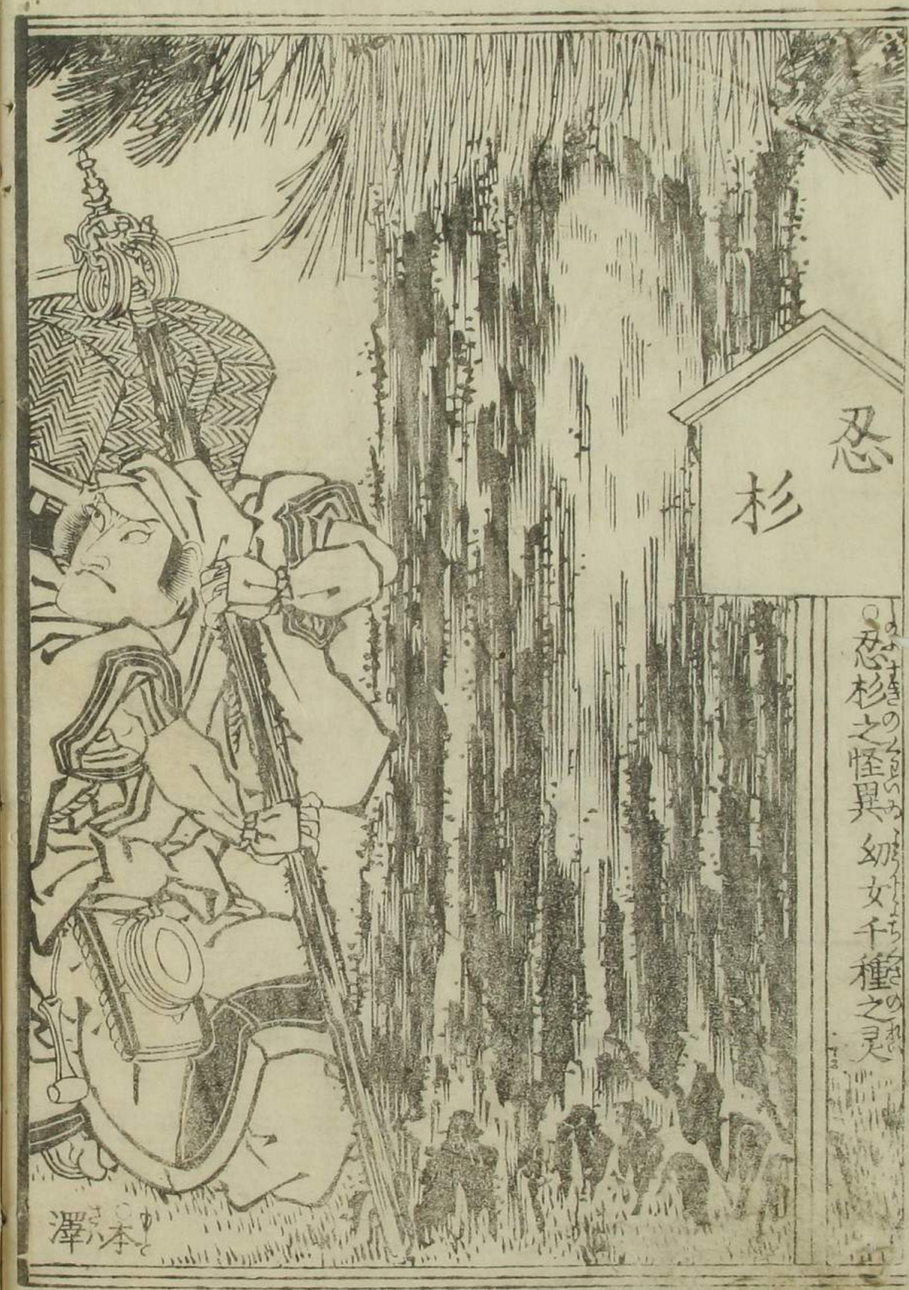
九作
国虎画
信州水沢
観音利益
雑食橋由来
文政二年
壱
へ13
2378
162

遠13
2378
162

信濃國水澤観音利益雑食橋来由奏語

信濃国水沢山八天平勝宝年中行基菩薩の開基なりて大同年中田村
将軍中興乃建立なりとぞ金堂瑠璃殿の正観音八行基菩薩の作千手観音
八臣村丸の甲丸鉢の守本尊なりと云傳ふ疫癘を除き夫婦愛敬の願其
外萬徳の尊容なりと一誓に限らず何度も祈る応験ありとぞ云ふ事
なし　いや中堂救世殿の側に忍ぶ杉とて大木あり此杉男女の恋忍ぶ
願ひをきくとぞ講堂乃阿遮羅王八弘法大師の作佛なり境内に雄鳥
羽の滝あり人此滝に浴すれば色黒きもの純白となり醜きものも容皃
兼敷なるとぞ云ふ當山城ある澤山ある澤寺とかの字に誤りて一
點を入れ澤寺となりあるべき予ひとせ當国に遊歴し當
寺に寄宿し囲炉裏乃榾火に若僧ども丸茶のもてなしを聞かる
侭あるに誌してあらし丸新撰とあるを事なるの程

文政二卯春　東都　十返舎一九題


忍杉
忍杉之怪異幼女千種之霊
本八澤

水沢の月
城山之後室野澤方
解由左衛門
武田明
虎

○逆臣鐘巖

右藤太景連

乃至童子戯聚沙為佛塔如是諸人等皆已成佛道

○城山之義女忍姫

神佛の之怪證

水澤山詠歌

あれはてし人もきたれる
ふる沢の
ながきまたむ
法のひとを

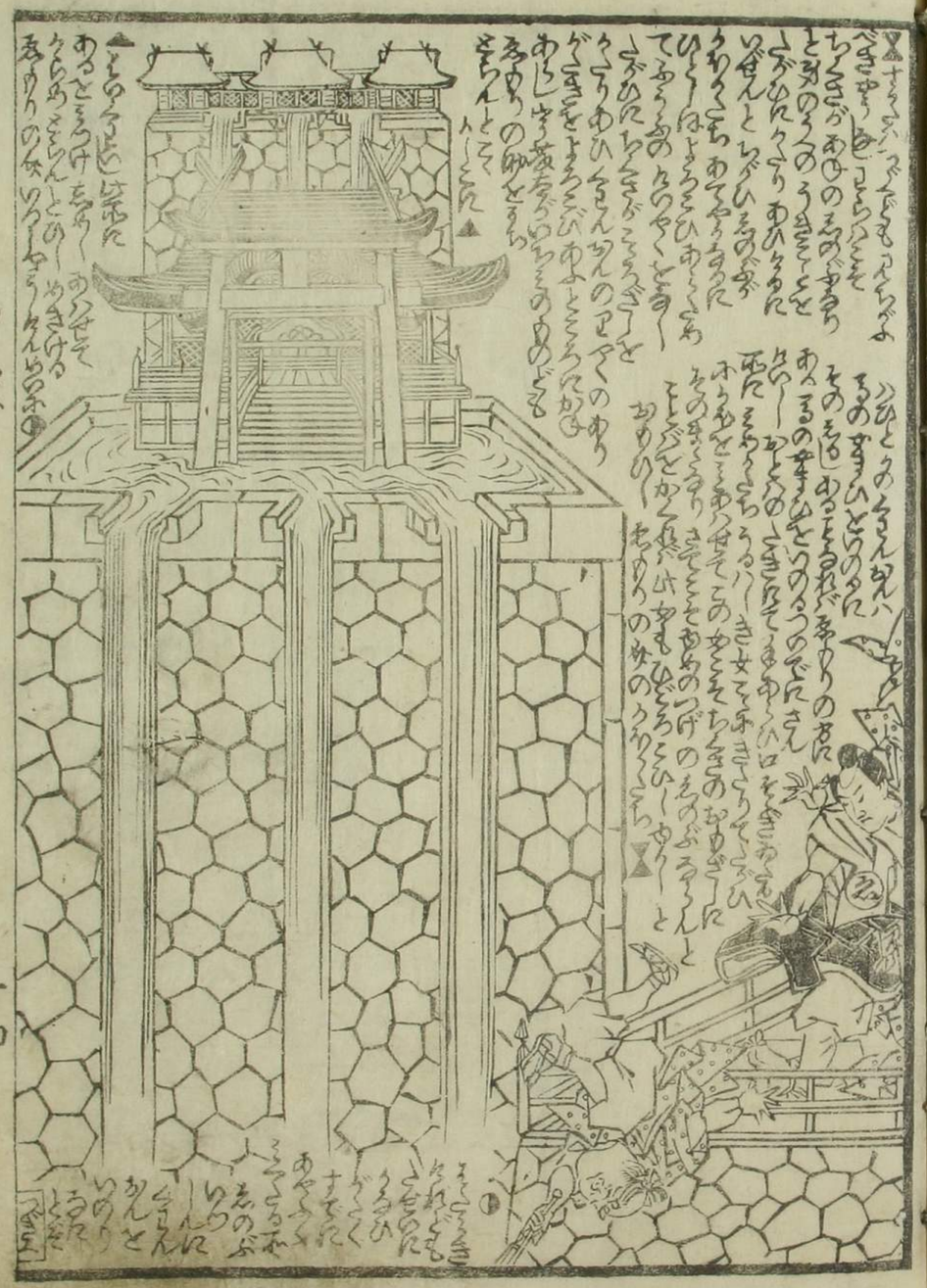
○本澤衛守之助

○寂莫法印怨霊

信州光明山の僧に寂莫法印とゝ者あり性質貪欲にして邪智深く強盗をなすあるゝ村郡の愚民を惑ひ過今の

金銭を掠めとり人の邪曲を企つるに合体して諸人に害をなす事数多ありて終に其身横死もるに至るとても猶悪心止ず梓川雑食搗造五の霊魂信心の功徳を悪き諸乃妨をなすゝるあと土人の口聞に残るいひしを国博えく此書に附會するのなり

ち
板の間



信州水沢
観音利益
雑食橋聚
卯のとしろそろ

十返舎一九作
歌川國虎画

後

鶴寿

信州
松本
水沢
三里
永沢
上里
氏
雑食
一里
飯田
水澤道
七曲り
鍵掛
切通シ
黒川
雑食橋
長サ七間
橋下十三間
杭多

信州梓川雑食橋圖
鳴く村ものぶ食物を貴ぶる今幾をとくとくいとうこと
飛騨海道
端場村
御番所
雑食橋
龍神社
蛇橋
嶋く村

奥州栗毛拾遺　十返舎著
全二冊
仮名垣魯文
板元

諏訪御柱傳記　全六冊　近刻

偽列仙伝の例あり稲門の経験夢
幅多の事由をとりくわしくしるす

十返舍一九著編

江都　十返舍一九著　歌川國直畫

玄同放言

著作堂隨筆

大本全六卷　初版三卷人の部まづく出来

あの書ハ天地人物人事植物器財動物雑篇とそれ部門を建ふ
こゝを謝肇淛ゞ五雑俎のごく部毎に故事を引異同を挙訛謬を
辨しみづからの考をのゝしふ古人未発の説多く間亦珍説
奇談を録して人乃視聴とあゝこゝ次そのも和漢の書数百部
を引据しあれば彼臆断杜撰乃冗籍前日時好ふ媚さる草紙
物語と相ゝ作者近年多病よりとく杖を莎庭の外に
曳こゝ且客を辭そふを久しくこゝ紙ゆく今この書をあらはす
窓友れ晤譚にかゝるこゝ一トるび巻を閲くものはその席に臨こ
それ言を聽にたるこゝ幼学有益の書といへべし　仙鶴堂識